



兵肢協会報

発行所

〒651-0062
神戸市中央区坂口通2丁目1-1
兵庫県福祉センター内

兵庫県肢体不自由児者協会

TEL 078-241-9907
FAX 078-241-9908
E-mail: hyoshikyo@nifty.com
URL: http://hyoshikyo.d.dooo.jp

兵庫県肢体不自由児者協会に

期待すること



一般財団法人
兵庫県肢体不自由児者協会 評議員

梶 正義

昭和23年(1948年)日本肢体不自由児協会の設立、その後、昭和34年(1959年)に兵庫県肢体不自由児協会が設立され、現在の当協会のさまざまな活動につながる歴史がスタートしました。

現在の兵庫県肢体不自由児者協会の活動は年間を通して本当にたくさんあり、その内容も多種多様です。この会報(年2回)もその一つですが、募金活動やバザー、美術展と手足の不自由な子どもを育てる運動、療育・更生相談や楽に生活できる姿勢・動作を学ぶ会、夏の交流会、愛と友情の旅や日帰り交流会、共催クリスマス会、さらには高校奨学生や療育キャンプへの助成などです。そして、この活動においても参加者・関係者から大きな評価や反響をいただいています。

しかし、少し気になることがあります。兵庫県肢体不自由児者協会の持続可能性をさらに高めていくという点での課題です。兵肢協会報第56号において本協会副理事長の司馬良一先生が次のように述べられております。「・・・鄭理事長がいつかの会報で、当協会の対象者が限られてきているのご指摘がありました。キャンフに限らず、肢体不自由児者との接点を見つけることが大事であると思います。そして当事者、保護者、学校関係者、福祉・医療関係者、有識者、協力者など(当協会理事・評議員)で今の時代、当協会のさらなる発展のために、何が求められているのか知恵を出していただきたいものです。私もなるほどその通りだなと感じました。特に、昨年から続いている新型コロナウイルス感染症の影響により多くの交流活動が制約を受け続け、SNS「つながり」が脅かされ「分断」が進むのではと心配であります。この「コロナ禍」の下ではすべてこれまで通りの活動を再開するのは大変

ですが、この状況が落ち着いた後の準備を進めることはできると思えます。また、鄭理事長や司馬副理事長が提起されている課題改善のための準備もすすめることができると思います。かといって私が素晴らしい解決案をもっているわけではありません。ただ、頭の中には小さなヒントが浮かんでいます。それは、これまでご紹介させていただいた現在のさまざまな活動に加えて、兵庫県内のおちのちから、地域ごとに少人数でも当事者や保護者、関係者が集まる活動、みんながつながる活動、当事者をはじめ関係者みなさんのウェルビーイング※につながる体験や体感がある活動を創り出すことにはどうでしょうか。今そこにある「つながり」を今そこで暮らしている地域で深め、広げていく活動をシンプルに考えてみることも大切ではないかと思えます。

兵庫県肢体不自由児者協会に期待することは、「コロナ禍」の下で大きな壁がいくつもあると思いますが、これまで広げ続けてこられた活動をこれからも是非続けていっていただきたいということです。また、生活する地域ごとの活動の創設と支援を考えて頂きたいと思えます。肢体不自由のある当事者、保護者、学校関係者、福祉・医療関係者、有識者、協力者などの関係するすべての人々と関係機関を「目」につなぐ役割とそれらの「目」のつながりを生涯にわたって繋ぐタテのつながりの核となっていたいただくとを期待いたします。

※ウェルビーイング：「幸福な状態」「良好な状態」「満足のいく状態」

肢体不自由児者協会は

肢体不自由児者の愛護思想の普及、療育等に関し必要な事業を行い、肢体不自由児者の福祉の増進を図ることを目的とし、そのために、

- 一 肢体不自由児者の愛護思想の普及
- 二 肢体不自由児者の療育相談及び更生相談
- 三 肢体不自由児者の教育の援護
- 四 肢体不自由児者の激励慰安
- 五 肢体不自由児者に関する刊行物等の発行及び幹旋
- 六 肢体不自由児者の福祉に関する調査及び研究
- 七 日本肢体不自由児協会及び関係諸団体との連絡などを行っています。